

こがねい

2008年6月 第15号

放射能測定室だより

発行：小金井市放射能測定器運営連絡協議会

<事務局>小金井市緑町5-19-14-608 Tel/fax:042-385-6650(江藤)

イラク攻撃でアメリカは2200トンもの劣化ウラン弾を
使用したといわれている。劣化ウランの半減期は45億年。



半永久的に核汚染されたイラクでは、被曝し白血病などで
苦しむ子どもたちが増えている。

柏崎刈羽原発に永遠の眠りを！

マグニチュード6.8

—中越沖地震でズタズター

2007年7月16日に起きた中越沖地震は世界最大規模と言われる東京電力柏崎刈羽原発を直撃しました。今回の地震の揺れは国内の原発が受けたものでは過去最大であり、世界でも前例のないものだったことが明らかになる一方、地震と原発をめぐるさまざまな問題があぶり出されました。

◆ 地震による損傷

黒々と煙を上げる地震直後の映像は日本中に大きな衝撃と不安を与えました。煙の正体は3号機変圧器の火災でしたが、「想定外」の事態に消化活動は手間取り、鎮火までに2時間かかりました。また、6号機では放射能物質を含む水が漏れ出し、誤って海へ放出されました。更に7号機では2日間にわたり、微量のヨウ素が大気中に放出されたことがわかりました。東京電力は当初「放射能漏れはない」と発表し、地元住民の方々は一層不信感を募らせました。危機管理、放射能管理の面で甘さを露呈するとどまらず、情報開示には迅速さを欠き、地元説明は後手に回る等、東京電力の初期対応には批判が集まりました。

今回の地震では原発の敷地全体が10センチも隆起し、敷地内には亀裂が錯綜しています。また、万が一の想定（限界地震）の約2.5倍を超える揺れに襲われた為、多くの施設や機器、配管に、見てもわからない、元にもどせない「永久ひずみ（塑性変形）」が発生した、と考えられます。このヒビまでいかない「ひずみ」については計算によって安全性を推測するしかなく、実際に次回揺れを受けた際には弱い揺れであっても同時多発の大事故が発生する危険性があります。明らかになっただけでも3000カ所近くの損傷トラブルを抱え、敷地も施設も機器もボロボロになった柏崎刈羽原発はもはや眠りにつかせる以外ありません。

◆ 断層はやっぱり動いた

長年にわたって地盤・地震論争が繰り広げられてきた柏崎刈羽原発ですが、1977年に東京電力が設置許可を取得する数年前から地元では地盤や断

層について安全性を疑問視する動きがありました。当時東京電力は約100億円を使って用地買収や漁業補償を済ませた後、土地の本格的な調査を始めており、35キロメートルに及ぶ活断層は「見逃されて」設置許可を受けたのです。原子炉設置許可取り消しを求めた訴訟においても地裁、高裁ともに「活動するおそれのない断層」として住民の訴えを退けてきました。今回の地震で動いた断層は原発の直下まで及んでいる可能性があり、震源の東に位置する「長岡平野西縁断層帯」は将来マグニチュード8程度の地震を起こす危険性があるとされています。

◆ 原発立地には完全に不適合

東京電力は柏崎刈羽原発について「基準地震動」（耐震設計の前提となる直下の地震の揺れの想定）を建設時の約5倍にするとの報告書を国に提出し、この新たな基準地震動に基づいて耐震補強工事に入る、と発表しています。あくまで運転の再開を前提とするこの動きには疑問の声が上がっています。

もともと日本で一番悪い地盤に建つ原発と言われた柏崎刈羽原発は「豆腐の上に建つ原発」と呼ばれてきました。その上、今回の地震によって大規模な地盤の変状が広範囲に発生した今、柏崎刈羽原発の敷地地盤は「建物・構築物は十分な支持性能を持つ地盤に設置されなければならない」と規定された「発電用原子炉施設に関する耐震設計審査指針」に違反することになり、この地は原発立地には完全に不適合であることが明白になりました。

そもそもこの地には原発を建てるべきではなかった、ということを経験した今回の地震は実証し、広く深く私たちに示しました。震源域がもう少しだけ南西よりであったり、マグニチュードが1964年の新潟地震並みの7.5程度であったりすれば、もっと激しい地震動が原発を襲い、「止める、冷やす、閉じ込める」機能も破壊されて、環境への放射能大量放出が起こっていたかもしれません。そして、私たちは今後そのような事態を絶対に避けなくてはなりません。日本列島のほぼ全域が地震の活動期に入った、と言われる現在、今回の地震を大きな警告と受け止めて、発電事業のこれからを考えていくべきではないでしょうか。

(香田)

原発は地球温暖化の解決策!?

・・・にはなりません

地球温暖化による気候変動を、多くの人が大変深刻な問題として受け止めるようになりました。そのために、いまできる最大限のことに取り組もう！という機運になってきています。これは遅ればせながらも歓迎するべきことです。ところが…

■ 地球温暖化対策には原発も必要!?

日本政府は以前から、温暖化対策として、原発を増やして火力・石炭発電を減らしていくことが有効だと主張してきました。そして、世界的にも原発には慎重だった国々までもが、その主張を変え始めています。地球温暖化の科学的な裏付けとなってきた IPCC（気候変動に関する政府間パネル）第四次調査報告書は、昨年の会議の中で、安全性や核拡散、核廃棄物への懸念の指摘はあるものの、地球温暖化防止の手段として、原発を初めて位置づけてしまいました。原子力産業は、地球温暖化対策のサポートを装って原子炉を発展途上国に輸出しようとしています。地球温暖化対策として、多くの国々が原発促進に向かって動きかねない状況です。

地球温暖化の危機の前には、原発の危険性や問題には目をつぶるべきなのでしょうか。

■ 地球温暖化のリスクも、放射能汚染のリスクも、NO!

いいえ、そんなことはありません。

まず、大事故の可能性を考えないわけにはいきません。気候変動によるリスクを緩和するために、何で放射能汚染のリスクを引き受けなければならないのでしょうか。昨年の柏崎刈羽原発の震災被害は想定を超えたものでしたし、今回の中国四川省大地震でも核施設の状態が心配です。また、私たちは食品の放射能測定活動によってチェルノブイリ事故による放射能汚染がいまだに続いている現実から目をそらすこともできません。

あまりに大きなリスクを抱えた原子力には頼らない未来を選択したい、というのが私の素朴なそして強い思いです。

■ 原発はCO2を出さないクリーンエネルギーではありません

でも、そんな選択を迫る以前に、そもそも原発は地球温暖化を解決するクリーンなエネルギーなのでしょうか。

原子力発電は発電所そのものだけでは成り立ちません。ウラン採掘に始まり、燃料輸送、発電関連施設の建設と解体、発電所からの温水の排泄、関連システムの維持、そして放射性廃棄物の半永久的な管理など、温室効果ガス・CO2の排出が少ないとは言えません。

また、発電出力コントロールの難しさによる電気の浪費、事故やトラブルによる稼働率の不安定さのために火力発電の補完に依存している現状など、計画通りに操作することが困難なこともすでに明らかです。

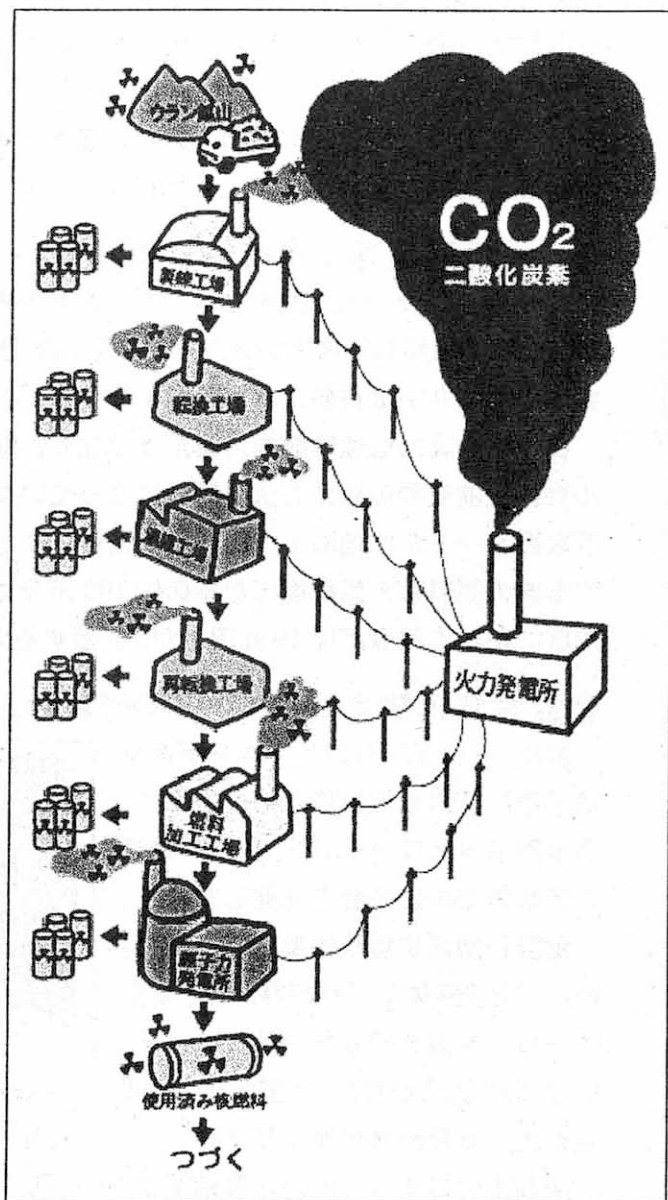
■ 省エネ社会と分散型の再生可能エネルギーを

原発に依存していると省エネや再生可能エネルギーには不熱心になり、地球温暖化を阻止する本当の解決策を逃してしまう心配もあります。

すでに日本における再生可能エネルギーの普及は大きく遅れています。太陽光発電や風力発電など地域ごとに適した分散型のエネルギー供給を、税制や補助金などで誘導する政策が選択されていないからです。

すでに進行している地球温暖化による環境破壊を緩和し、原子力による新たな放射能汚染を回避するために、再生可能なエネルギー供給に基づく暮らしや社会に向かうことは、いま、ほんとうに緊急課題です。

漢人明子（緑町）



● 学習会のお知らせ

原発なくても 電気はだいじょうぶ

お話：安藤多恵子さん
（市民エネルギー研究所 所長）

日時：9月6日（土）13:30～

会場：上の原会館

主催：放射能測定器運営連絡協議会

*ウラン鉱山→精錬工場→転換工場→濃縮工場
→再転換工場→燃料加工工場→原子力発電所
→使用済み核燃料→つづく

http://www.greenpeace.or.jp/campaign/energy/basics/nuke_html
「グリーンピース・ジャパン」ホームページより

六ヶ所再処理工場は、いらない!!

—学習会、反対集会からの声—

青森県六ヶ所村に建設され、日本国内の原子力発電所で燃やされた使用済み核燃料から、ウランとプルトニウムを取り出すための「六ヶ所再処理工場」。本格稼動が何度も延期になりながらも試運転が続く中で、全国から放射能汚染に対する不安の声が大きくなっています。

本格稼動が始まれば、原子力発電所が1年間に放出する量の放射性物質をたった1日で海と空に排出し続け、農業・漁業に与える影響は大きく、環境破壊も計り知れません。工場はいらないと訴える集会を報告します。

●六ヶ所再処理工場は必要なの？ —学習会から—

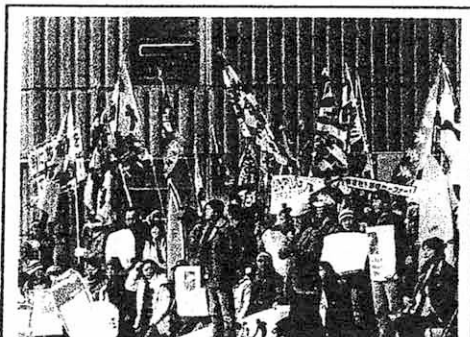
2008年1月20日、「原発と私たち—六ヶ所再処理工場は必要なの？」と題し、原子力資料情報室の渡辺美紀子さんを迎えて学習会が行われました。会場の小金井市公民館には、関心を持つ多くの人が集まりました。

この再処理工場は放射能汚染だけでなく、再処理の過程でできる高レベル放射性廃棄物の処分方法も問題になっています。ガラス固化体にして地下数百メートルに埋めることになっていますが、その放射能が原発で使用する前の燃料棒と同程度になるのに100万年はかかるとのこと。また、再処理にかかる総費用は19兆円とか。負担するのは、私たち市民なのです。

●放射能汚染を阻止！ —反対集会から—

また、1月27日には、「六ヶ所再処理工場に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク」が、日比谷野外大音楽堂で市民集会を開催しました。

全国各地の生協や漁業・農業の協同組合、市民団体などが呼びかけ、食品メーカーや海を守りたいサーファーなど、596団体が賛同、全国から2,000人を越える賛同者が集まりました。



大漁旗やメッセージボードで六ヶ所工場の稼動反対をアピール

集会後の日比谷公園から東京駅までのパレードにも2,500人が参加しました。「放射能汚染はNO!」「安全な魚や野菜を食べたい!」という言葉に耳を傾け、「がんばって」と手を振る沿道の人也大勢いました。六ヶ所再処理工場の本格稼動の中止を求める署名は81万筆を超え、1月28日に国会に提出されています。(小山美香)

【2007年度測定結果一覧表】

(2007年4月～2008年3月)

	測定品目	件数	原産国	測定結果(単位・ベクレル/kg)
乳製品	粉ミルク	1	不明	検出されませんでした
小麦製品	小麦粉・てんぷら粉	4	不明	"
お茶	ドクダミ茶他	2	日本	"
	プーアール茶	3	中国	"
	紅茶	1	スリランカ	"
	ルイボスティ	1	不明	"
海産物	スルメ	1	日本	"
	ワカメ他	4	"	"
	カツオ節	1	"	"
	煮干し	2	"	"
野菜	切干大根他	3	日本	"
	根生姜他	2	中国	"
キノコ	ポルチーニ	1	イタリア	セシウム137 81.24
	ポルチーニ	1	イタリア	セシウム137 6.65
	干シイタケ	2	日本・中国	検出されませんでした
穀類	オートミール	1	オーストラリア	"
	うるち粟	1	日本	"
	白米他	4	"	"
豆・種製品	ゴマ	2	日本・中国	"
	コーヒー豆	1	ブラジル	"
	エゴマ	1	日本	"
	アーモンド粉	1	不明	"
	凍り豆腐	1	日本	"
	きな粉	1	中国	"
その他	ワイン	1	チリ	"
	ベビーフード	1	不明	"
	カレー粉	1	不明	"
	タピオカ	1	不明	"
	チョコレート	1	不明	"

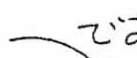
合計 47


☆以上の他、保育園、学校給食材29件を測定し、いずれからも放射能は検出されませんでした。

☆セシウムはチェルノブイリ原発事故によって大量に放出された放射能です。過去の核実験によって地表に蓄積もされています。分解されるのに時間がかかるので(半分の量のなるのに約30年)いったん環境に出てしまうと長く残ります。

☆ヨウ化ナトリウム検出器で200cc6時間測定しています。

▶ 測定依頼をお寄せください!!

申し込み方法等は  です。よろしく

お願いします! 

なお、実際に測定にかかわりたい方、
 手に協賛会に参加したい方、いつでも募集して
 いますのでご連絡ください。大歓迎です!


はかってほしい時は

① 市役所経済課に問い合わせの
 申込みをしてください。
 042-387-9831
 (経済課) 




②  測定日の指定が
 ありません。
 CAOに決めて
 ください

③ 指定日の朝9:00に検体(はかりたいもの)を
 市庁舎に持参し、協賛会関係者に
 わたします。(検体は詳しく、作しておくと)




④  受付票に
 必要事項を記入。

 測定中
 6時間測ります。

⑤  夕方、検体を引き取りに来てください。
 測定結果を記入した通知書をお受け取り
 ください

* 370ml以上が不適合の場合も別途、
 検定結果は発行いたしますので、ご持参
 いただいた検体は返却できません

★ 200ccの容量が必要です。
 (スプーンで150gのりなど、
 住生活センター210gのりなど)
 市庁舎にて検体が集まるので、
 市協賛会にお知らせください。



★ 食品に限りません。

★ 無料です。

